

平成29年度第8回国立大学法人静岡大学経営協議会議事録

日 時 平成30年1月25日（木）14時00分～15時40分

場 所 事務局棟5階大会議室

出席者 塩田、杉田、野田、晝馬、細井

石井、丹沢、東郷、堀川、寺村、本橋、鈴木の各委員

欠席者 泉、伊藤、大石、川勝、木村の各委員

陪席者 伊東副学長、鈴木、村松の各監事

I 前々回及び前回議事録の承認について

平成29年度第6回国立大学法人静岡大学経営協議会議事録（案）及び平成29年度第7回国立大学法人静岡大学経営協議会（メール審議）議事録（案）を原案どおり承認した。

II 審議事項

1 中期目標及び中期計画の変更について

東郷委員から、「静岡大学の理念と目標」の制定及び光医工学研究科の設置等に係る中期目標及び中期計画の変更について、資料1により提案があり、審議の結果、原案どおり承認した。

（学外委員から出された主な意見）

〔外〕：学外委員の意見等 △：本学側の意見・説明等〕

⑥：若手教員を増やすために60歳以上の教員の仕事を減らして給与を減らすことを検討する必要があるのではないか。

⑥：光医工学研究科は医師への光工学分野の教育が重要である。

2 国家公務員の給与改定に関する教職員給与への対応について

堀川委員から、国家公務員の給与改定に関する教職員給与への対応について、資料2により提案があり、審議の結果、原案どおり承認した。

（学外委員から出された主な意見）

〔外〕：学外委員の意見等 △：本学側の意見・説明等〕

⑥：大学の業績がよかった場合の教職員へのインセンティブはどのようになっているのか。

△：経営努力によって剰余金が生じた場合は財務大臣への協議及び承認によって翌年度以降、施設整備に使用することは可能であるが、人件費には使用できない。教員は年俸制を導入しているので年俸制を適用している教員は評価によって高い格付けを得ている者がいる。

3 施設長寿命化計画のための財源確保について

堀川委員から、施設長寿命化計画のための財源確保について、資料3により提案があり、審議の結果、原案どおり承認した。

(学外委員から出された主な意見)

〔⊕：学外委員の意見等 △：本学側の意見・説明等〕

⊕：コスト削減など教職員の意識改革のための方策という位置付けもあるのか。
△：教職員はもとより学生にも施設を大事に使うという意識を持ってもらうことが重要であり、そのための一つの方策であると考えている。また、施設の整備及び維持管理ともに国からの施設整備費補助金等に加えて多様な財源確保が求められており、施設マネジメントを実施する上での自主財源の確保との位置付けである。

III 報告事項

1 平成30年度予算について

堀川委員から、平成30年度予算について、資料4により報告があった。

2 国立大学法人静岡大学長選考の手續に係る改善策について

塩田委員から、国立大学法人静岡大学長選考の手續に係る改善策について、資料5により報告があった。

3 国立大学法人静岡大学長選考会議規則の一部改正について

塩田委員から、国立大学法人静岡大学長選考会議規則の一部改正について、資料6により報告があった。

IV その他

1 静岡大学関連記事

議長から、静岡大学に関連する新聞記事について、参考資料により紹介があった。

2 その他

(学外委員から出された主な意見)

〔⊕：学外委員の意見等 △：本学側の意見・説明等〕

⊕：教員にとって研究が一番重要であることは承知しているが、「アクトファスト」による中小企業支援などの地域貢献を行う教員についても、その成果を業績として評価する必要がある。そうすれば、教員のモチベーションもあがるのではないか。大学としても支援した事業が成功すれば資金が入ってくるメリットがある。

㊦：若手人材を採用できる教員ポストは減っているのか。

△：人件費管理上、退職教員枠をすべて補完しているわけではないので、教員ポストそのものは減少している。ただし、採用に当たっては、分野によって状況が異なり、光・情報系は人材そのものが少なく、採用に至らないケースもあるが、生命科学系は人材需要に比べてポストが多くなかなか職を得ることが大変であるなどミスマッチな状況となっている。

以 上